

琉通ロジ総研

【沖縄】琉球通運（喜納秀智社長、那覇市）のグループ企業などが加盟する琉通ロジステイクス総合研究所（新垣直人理事長）は2023年10月から3カ月間、第1期ロジステイクス人材育成事業を実施した。傘下企業の幹部候補が「ドライバー不足」「人材育成」「情報技術（IT）導入」をテーマに、物流の課題を数値・可視化して解決し、収益増に導く手法を学んだ。

12月6日の第3回全体研修

人材育成へ第1期研修

運転者不足などテーマ



は、「琉球通運グループで取り組むコンテナGPS（全地球測位システム）の効率管理」をテーマに、4グループに分かれて改善策のプレゼンテーションを競った。

各チームは、事前に行った現場ヒアリングをベースに「コンテナの回転率アップ」「情報共有による顧客満足度

向上」「作業の可視化」「システムの開発コスト」の各項目から課題を抽出。真因の発見と改善、効果の検証を発表した。

総括で、新垣理事長は「ロジステイクスは、労働集団ではなく頭脳集団であるべきだ。皆さんはリーダーとして新しいことを受け入れ、引張る力、人をまとめる力、責任感と使命感を養った。沖縄の物流、商流の課題を解決

し、経済を活性化させてほしい。琉通総研は立ち上がったばかりだ。地元企業の皆さんと共に発展していきたい」と述べた。

琉通ロジ総研は、県内で珍しい物流系シンクタンク。コンテナや物流施設の利用状況、市場の動向など情報を収集・分析し、物流の課題解決・活性化に向けた施策を提言している。第2期ロジステイクス人材育成事業は、物流に携わるグループ外の企業を含めて24年1～3月に実施する。

「沖縄の物流、商流の課題を解決し、経済を活性化させよう」と新垣理事長（12月6日）

（上田慎二）